

令和 6 年度
東京大学アジア研究図書館
活動報告書

令和 6 年度アジア研究図書館活動報告書目次

I 令和 6 年度の特記事項	1
II 図書館事業	2
2.1 資料のデジタル化	2
2.2 利用者サービス、広報	4
(1) 利用者サービス	4
(2) 広報	4
2.3 規則策定	5
(1) 分室設置に伴う「文学部漢籍コーナー運営委員会規則」の改正	5
(2) 「アジア研究図書館選書委員会設置要項」の制定	6
(3) アジア研究図書館の公印作成	6
(4) 「東京大学アジア研究図書館規則」の改正	6
(5) Indira Gandhi National Centre for the Arts との協定案	6
2.4 資料の収集・管理	6
(1) 移管の進捗	6
(2) アジア研究図書館選書委員会	7
(3) 購入資料	7
(4) 寄贈資料一覧	9
2.5 学内との連携	9
(1) 図書館実習（インターンシップ）への協力	9
(2) 学生協働	9
(3) 「教員著作物の可視化と国際発信」事業との連携	9
2.6 社会連携活動	10
(1) 国立国会図書館アジア情報関係機関懇談会参加	10
2.7 海外機関との連携	10
(1) TRCCS からの資料寄贈	10
(2) UCLA 東アジア図書館ライブラリアンの訪問	10
(3) スレイメノフ東洋学研究所所長の訪問	11
(4) 南開大学歴史学院学生の訪問	11
(5) ベルリン自由大学ライブラリアンの訪問	11
(6) デリー大学学生の訪問	11
(7) 復旦大学ライブラリアンの訪問	11
(8) スリランカ高校生の訪問	11
2.8 図書関係ワークショップ	12
(1) アジアンライブラリーカフェ No. 8 「こんなにスゴイ！熱帯雨林地域@マレーシアの環境微生物」 ..	12
2.9 アジア研究談話会	12

2.10 アジア研究図書館会議	12
(1) 運営委員会	12
(2) アジア研究図書館分館分室検討連絡会議	13
2.11 統計	13
(1) 蔵書数、資料費総額、館外貸出冊数	13
III 研究事業	14
3.1 シンポジウム・学会等の開催・参加	14
(1) U-PARL サブジェクト・ライブラリアン・トーク「ハワイ大学マノア校日本研究司書・中村充孝氏を囲んで」	14
(2) U-PARL 文理融合・東西融合ワークショップ「瞑想／観想を東西からみる」	14
(3) U-PARL ワークショップ「近代植民地期の地図と写真」	15
(4) アジア研究図書館分館設立記念講演会「東文研図書室の新たな旅立ちに向けて」	15
(5) 「文化も薫る聖なる敷居——レザー廟図書館協力覚書調印記念展示」および記念セミナー	15
(6) 「仏教研究とデジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム：大正新脩大藏經の 100 年 SAT の 30 年」	16
(7) U-PARL シンポジウム：むすび、ひらくアジア 6「ボトルネックを乗り越える新時代のアーカイブ」	16
(8) 国際会議 “Overcoming the Divide: Connectivity and Trust Building for Middle East Peace”	17
(9) U-PARL 文理融合・東西融合フォーラム（むすび、ひらくアジア 7）SHIBUYA QWS アカデミアスペシャル東京大学「“明日を心ゆたかに過ごすには？”アジアの視点からみる Society5.0」	17
(10) 国際シンポジウム "The Libraries and Archival Practices in the Early Modern Eastern Islamic World "	19
(11) アジア研究図書館ワークショップ "Typology of the Documents from the Safavid Period in the Astan-e Ghods"	19
3.2 成果の公開	19
(1) 高島俊男原著、荒木達雄・石川就彦・藤村明日香翻刻／校注『翻刻 高島俊男《水滸伝語彙辞典稿》 D の部（下）・E の部』	19
(2) 高島俊男原著、荒木達雄・石川就彦・伊藤和子翻刻／校注『翻刻 高島俊男《水滸伝語彙辞典稿》 L の部』	19
(3) 河崎豊編『アジア研究図書館叢書 7 アジア研究図書館所蔵南アジア地域研究プロジェクト東京大学拠点 (TINDAS) 寄贈資料目録』	20
(4) 鈴木舞編『アジア研究図書館叢書 8 東京大学文学部考古学研究室漢籍分類目録』	20
3.3 個人研究業績	20
(1) RASARL メンバー	20
(2) U-PARL メンバー	26
IV. 構成員等名簿	38
4.1 運営委員会名簿	38
4.2 構成員名簿	38
別紙 1	40
別紙 2	42

別紙 3.....	44
別紙 4.....	46

注記：

東京大学附属図書館にはアジア研究図書館研究開発部門およびアジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門の2部門が存在している。本報告書では略称を用い、前者を RASARL (Research Advancement Section for the Asian Research Library)、後者を U-PARL (Uehiro Project for the Asian Research Library) と表記する。U-PARL は国立大学法人東京大学の運営費ではなく公益財団法人上廣倫理財団からの寄付金によって運営されている。そのため U-PARL の予算を使用した活動についてはその旨明記した。

I 令和6年度の特記事項

館長 佐川英治

令和5年度中にU-PARL特任准教授（永井正勝）が退職し、令和5年度末にU-PARL第2期の終了に伴い特任助教（徳原靖浩）および特任研究員（澁谷由紀・須永恵美子・中尾道子）が退職した。令和6年4月よりU-PARL第3期が開始し、特任准教授（一色大悟）、特任助教（太田（塚田）絵里奈）、特任研究員（アクマタリエワ ジャクシルク（Akmatalieva Jakshylyk）・澁谷秋・田中あき）が着任した。第3期U-PARLのミッションとして、「文理融合・東西融合フォーラムの形成」「デジタル資源の作成」「アジア研究図書館の運営」「社会還元」の4点が策定された。

令和5年度に引き続き、選書委員会の活動を通じてコレクションの構築を進めるとともに、アジア研究図書館叢書第7巻・第8巻を刊行した。

令和5年8月17日付で東洋文化研究所および人文社会系研究科と取り交わしたアジア研究図書館分館・分室設置に係る協定書に基づき、アジア研究図書館規則を改正し、令和6年11月15日付で、東洋文化研究所図書室が分館、人文社会系研究科・文学部漢籍コーナーが分室となった。

II 図書館事業

2.1 資料のデジタル化

(1) 館内所蔵資料（一部館外資料を含む）

「アジア研究図書館デジタルコレクション」構築事業の一環として、U-PARL は東京大学各部局に所蔵されるアジア研究関連資料のデジタル撮影を毎年おこなっており、令和6年度は下表のとおり全35点の撮影を実施した。うち漢籍コーナー貴重書コレクション所蔵の5点は、RASARL との協働によるものである。今後、「東京大学デジタルアーカイブポータル」内の同コレクション内にて公開予定である（下表の項目「収録予定コレクション」は、「アジア研究図書館デジタルコレクション」内のサブコレクションを指す）。

資料名	所蔵者	収録予定コレクション
Сарты : этнографическіе матеріалы	アジア研究図書館	中央ユーラシア文献コレクション
Букварь для якутовъ	総合図書館	中央ユーラシア文献コレクション
Краткая грамматика казакъ-киргизскаго языка ч. 1 фонетика и этимология	総合図書館	中央ユーラシア文献コレクション
Краткая грамматика казакъ-киргизскаго языка ч. 2 Синтаксисъ	総合図書館	中央ユーラシア文献コレクション
Матеріалы для изслѣдованія чувашскаго языка	総合図書館	中央ユーラシア文献コレクション
Полнѣйшій самоучитель татарскаго языка: въ 4-хъ частяхъ	総合図書館	中央ユーラシア文献コレクション
Этимологія сартовскаго языка : для курсовъ при Ташкентскомъ отдѣленіи императорскаго общества востоковѣдѣнія	アジア研究図書館	中央ユーラシア文献コレクション
Руководство : къ практическому изученію : сартовскаго языка, В. Наливкинъ Тип. турк. т-ва печатнаго дѣла, 1911, 2-е изд	アジア研究図書館	中央ユーラシア文献コレクション
Букварь для чувашъ съ присоединеніемъ русско́й азбуки	総合図書館	中央ユーラシア文献コレクション

A naturalist in western China: with vasculum, camera, and gun : being some account of eleven years' travel, exploration, and observation in the more remote parts of the flowery kingdom, vol.1,vol2	総合図書館	U-PARL セレクション
印度哲学小史	総合図書館	U-PARL セレクション
五事毘婆沙論口義	東洋文化研究所図書室	U-PARL セレクション
立世阿毘曇論日月行品考定曆原・須彌界日道中路八線表根・瞿曇氏曆稿	総合図書館	U-PARL セレクション
宿曜經算曜直章・瞿曇氏曆草稿・古今交食考・立世阿毘曇曆法推歩	総合図書館	U-PARL セレクション
梵曆考證	総合図書館	U-PARL セレクション
梵曆議考・梵曆法數原	総合図書館	U-PARL セレクション
印度太陽曆	総合図書館	U-PARL セレクション
俱舍論頌釋疏鈔	総合図書館	U-PARL セレクション
平安朝末期に至る國語の音韻變遷	韓国朝鮮文化研究室	U-PARL セレクション
図書購入簿	韓国朝鮮文化研究室	U-PARL セレクション
朝鮮物語	駒場図書館	U-PARL セレクション
朝鮮物語	教養学部国語・漢文部会	U-PARL セレクション
朝鮮物語	総合図書館	U-PARL セレクション
朝鮮物語	総合図書館	U-PARL セレクション
Bản chỉ cách đọc và ý nghĩa Annam các chữ nho trong sách tứ thư (四書不二字音義撮要)	総合図書館	U-PARL セレクション
佛印の政治經濟狀況と印度支那人の希望事項	経済学部図書館	U-PARL セレクション
泰・佛印における宣傳戦	経済学部図書館	U-PARL セレクション
佛印文化情報 5	東洋文化研究所図書室	U-PARL セレクション
薬用植物	理学部図書室	U-PARL セレクション
佛印産薬用植物(下巻), Catalogue produits de l'Indochine, Tome V, Produits Medicinaux	理学部図書室	U-PARL セレクション

周易兼義（閩刻十三經註疏）	中国思想文化学研究室	漢籍コーナー貴重書 コレクション
毛詩註疏（閩刻十三經註疏）	中国思想文化学研究室	漢籍コーナー貴重書 コレクション
周禮註疏（閩刻十三經註疏）	中国思想文化学研究室	漢籍コーナー貴重書 コレクション
儀禮註疏（閩刻十三經註疏）	中国思想文化学研究室	漢籍コーナー貴重書 コレクション
禮記註疏（閩刻十三經註疏）	中国思想文化学研究室	漢籍コーナー貴重書 コレクション

なお、従来の「東京大学学術資産等アーカイブズリンク集」と「東京大学学術資産等アーカイブズポータル」の機能が統合され、令和6年5月に「東京大学デジタルアーカイブポータル」としてリニューアルがおこなわれたのに伴い、「アジア研究図書館デジタルコレクション」のURLが <https://da.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/portal/collection/asia> に変更された。

また、U-PARL ウェブサイト上にて「消滅危機言語デジタル・アーカイブ」を公開した (<https://u-parl.lib.u-tokyo.ac.jp/japanese/endangeredlanguages>)。令和6年度は、南シベリアで話されているテュルク系少数言語であるシオル語を対象とする「シオル語の詩と朗読」を公開した (<https://u-parl.lib.u-tokyo.ac.jp/japanese/shor-poem>)。

2.2 利用者サービス、広報

(1) 利用者サービス

博士課程学生1名をカウンタースタッフとして雇用し、貸出業務や利用者対応等をおこなった。当該学生はカウンター業務の他、アジア研究図書館所蔵資料の整理業務も担当した（関連項目：II-2.5.(3)学生協働）。

(2) 広報

A. 『アジア研究図書館（東京大学アジア研究図書館ニュースレター）』発行

令和6年度は第15号（令和6年4月4日発行）、第16号（令和6年7月5日発行）、第17号（令和6年10月4日発行）、第18号（令和7年1月9日発行）、合計4号を発行し、当館ウェブサイトで公開した。

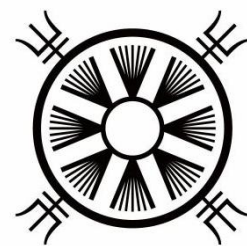
参考URL：<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia/newsletter>

B. 図書館総合展

令和6年11月5日～7日にパシフィコ横浜で開催された第26回図書館総合展において、RASARLはポスターセッションの形式で出展し、主としてイランのアースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー図書館・博物館・文書館機構との協定発足およびそれを記念するイベントの広報をおこなった（<https://www.libraryfair.jp/poster/2024/169>）（関連項目：III-3.1.(5), (11)）。

C. ロゴマークの策定

複数の候補に対し附属図書館教職員等の意見を募った上で、当館ロゴマークを右のとおり策定した（<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia/about#arl-logo>）。ロゴマークのデザインは、内田祥三氏が設計した本学総合図書館の4階である当館の天井模様をベースにしたものであり、中心部から放射状に広がる線は、直立する図書が背表紙を向け合って円環状に並ぶようすを上から見た形を模したものである。広く外に向かって開き、アジア研究資料を核に研究の人材と知を結びつけ再編するハブ



アジア研究図書館
Asian Research Library

（hub＝車輪の中心部）としての役割を担ってゆく、という当館設立の理念を表している（関連項目：II-2.3.(4)）。

2.3 規則策定

(1) 分室設置に伴う「文学部漢籍コーナー運営委員会規則」の改正

令和6年7月22日に開催された第2回アジア研究図書館運営委員会にて、齋藤希史委員（人文社会研究科教授／漢籍コーナー運営委員長）より、漢籍コーナー運営委員会と当館分室の関係を明文化するため「文学部漢籍コーナー運営委員会規則」が下記のように改正され、令和6年7月4日開催の人文社会系研究科教授会において承認された旨の報告がなされた（巻末別紙1参照）。

- ・第2条「任務」において、従来の「漢籍コーナーの管理運営に関する」という文言を「漢籍コーナー及びアジア研究図書館分室の管理運営に関する」と改めた。
- ・第5条「委員以外の者の列席」において、委員長が指名する列席者に「アジア研究図書館研究開発部門の教員を含む」と明記し、文学部教員以外のRASARL教員の列席を可能にした。

(2) 「アジア研究図書館選書委員会設置要項」の制定

同じく第2回運営委員会にて、「アジア研究図書館選書委員会設置要項」について協議がおこなわれ、原案どおり承認された（巻末別紙2参照）。

(3) アジア研究図書館の公印作成

同じく第2回運営委員会にて、アジア研究図書館長の公印作成について協議がおこなわれ、「東京大学アジア研究図書館長之印」という表記の23mm角印を公印として作成し、本部に登録することが承認された。

(4) 「東京大学アジア研究図書館規則」の改正

同じく臨時の運営委員会メール審議にて、東洋文化研究所を分館、文学部漢籍コーナーを分室とする「東京大学アジア研究図書館規則」改正案について協議がおこなわれ、第465回図書行政商議会（11月15日開催）に諮ることが承認された。その後、令和6年11月15日に開催された第465回東京大学図書行政商議会にて承認された（巻末別紙3参照）。

(5) Indira Gandhi National Centre for the Arts との協定案

令和6年11月20日に開催された第3回アジア研究図書館運営委員会にて、オブザーバーの加藤隆宏准教授（人文社会系研究科）より、Indira Gandhi National Centre for the Arts（IGNCA）との学術交流協定案について説明がなされ、審議の結果、原案により協定を進めることが承認された（巻末別紙4参照）。

2.4 資料の収集・管理

令和6年度の資料受入冊数は、部局からの移管分が5,646冊、購入分が337冊、寄贈分が3,336冊で合計9,319冊であった。これにより令和7年3月末時点でアジア研究図書館の蔵書冊数は74,946冊（うち自動書庫入庫冊数は37,776冊、開架蔵書冊数は36,934冊、その他〔貴重書庫・保存書庫等〕冊数は236冊）となった。蔵書冊数のうち配架冊数は73,332冊である。

(1) 移管の進捗

令和5年度に引き続き、令和6年度は自動書庫への入庫を前提とした他部局からの移管をおこなった。5,646冊の移管資料はすべて自動書庫へ配架された。

(2) アジア研究図書館選書委員会

令和6年6月13日に令和6年度第1回、9月30日に第2回、11月25日に第3回、令和7年2月17日に第4回選書委員会が開催された。選書委員会の構成は以下の通り。

委員長 森本一夫		
担当地域	主担当	副担当
1 アジア	一色大悟	河原弥生
2 東アジア	板橋暁子	荒木達雄、澁谷あき
3 東南アジア	田中あき	
4 南アジア	河崎豊	一色大悟
5 中央ユーラシア	河原弥生	アクマタリエワ ジャクシルク
6 西アジア	太田絵里奈	
事務局	原香寿子	蓮見ちひろ

令和6年度委員会の主要な活動として、各地域担当者による選書（次節参照）のほか、令和5年度より着手していた分類表の英訳を確定させた。また、令和6年11月15日付「令和7年度大型コレクションの推薦について」公示を受け、東洋文化研究所と連携して上海古籍出版社の点校本古籍データベース「尚古匯典・典籍整理文獻數據庫」を推薦することを選書委員会として決定し、附属図書館からの推薦として提出した。なお、来年度以降の大型コレクションの推薦は、運営委員会に報告したうえで応募することが第4回運営委員会で確認された。

(3) 購入資料

A. 購入資料

1. アジア

令和6年度も、学内他部局で所蔵が少ない、現代的テーマをあつかった英語のハンドブック・必携・研究書を中心に選書を行った。複数地域を扱う書籍（地域分類 1-01）購入分 19 冊の中には、シリーズ Crossroads:History of Interactions across the Silk Routes 既刊のうち、所蔵されていなかった 5 冊を含む。加えて、従来所蔵数が少なかった、日本と他地域の関係を扱った書籍（地域分類 1-02）を 2 冊、地域性のない普遍的テーマを扱う書籍（地域分類 1-91）を 3 冊購入し、蔵書充実に努めた（全 24 冊）。

2. 東アジア

中国語資料は国際交換システムおよび TRCCS 交流など寄贈ルートが充実していることもあり、新規購入は引き続き少数であるが、自然科学や工学技術に関する資料を中心に計 15 点購入

した。朝鮮語資料は、出版産業や音楽・美術・服飾等に関する資料を中心に計 58 点購入した。英語資料は 1 点、『中国服飾史図鑑』全 4 巻を含む日本語資料は 6 点購入した（同図鑑は新刊が一部品切のため古書にて購入）。

3. 東南アジア

蔵書数の少ないミャンマーを主題とした図書の選書に重点を置き、ミャンマー人学生の協力を得て、ミャンマー関連図書 25 点（うちミャンマー語 22 タイトル）を補充した。また、従来資料に乏しかった東南アジアの豊富な情報が記された「大東亜共栄圏」の文化研究雑誌『東亜文化圏』復刻版（青年文化協会東亜文化圏社発行、全 37 冊＋付録 2 冊＋別冊）、および東南アジア各国の子どもたちのくらしが紹介された図書 5 点を購入したほか、シンガポール出身アーティストの展覧会カタログ 2 点などを収集した。

4. 南アジア

令和 5 年度に引き続き、南アジアの各地域間における資料数の偏りを多少なりとも解消するために、資料が不足する単一の地域を中心に選書すると同時に、南アジア全体からみて基本的と思われる資料を収集した。前者についてはスリランカを対象とし、宗教、歴史、文化、政治、伝統医学、言語に関係する資料を、後者についてはヒンドゥー教、ジャイナ教、古典文学、言語に関係する資料を選書した（なお継続購入資料を含む）。

5. 中央ユーラシア

テュルク系（タタール語、シベリア・タタール語、ウイグル語、アルタイ語）、モンゴル系（ブリヤート語、カルムイク語）、ウラル系（マリ語）の辞書を中心に、百科事典、イスラーム、歴史、人物伝、言語学、文学史の分野から計 45 点を選書した。このほか、キルギスの学校教科書（キルギス語、歴史、物理）19 点を購入した。

6. 西アジア

令和 6 年度は西アジア地域が対象とする言語、分類上の偏りを是正すべく、トルコ語資料及び中東地域の経済、現代政治、文化史関係の研究書に重点を置いて収集した。また、エジプト・アラビア語の辞書一点をレファレンスとして購入した。そして学内他図書室に所蔵されていたオスマン朝期文書目録（al-Bilād al-‘Arabīyah fī al-wathā’iq al-‘Uthmānīyah）を移管し、未所蔵巻（vol.8-10）を新たに購入することで資料を集約し、研究上の利便性向上を目した（合計 28 タイトル）。

B. データベース

データベース名称	概要
『中華經典古籍庫』第11期・第12期	中国の出版社が手がけた漢籍整理本の成果を反映したもの

上記はU-PARLにより導入された（第12期の導入後、令和7年3月にプラットフォームが刷新された）。このほか、18世紀から20世紀半ばにかけてオスマン・トルコ語で印刷されたほぼすべての書籍と定期刊行物の大半を収録する全文検索データベース「Muteferriqa」のトライアルをおこなった（令和6年5月10日～7月10日）。

(4) 寄贈資料一覧

当館ではアジア研究者・諸機関から寄贈資料を受け入れてきた。令和6年度中に受入が決定したコレクションは以下の通りである。

名称	寄贈年度	内容	点数
江上波夫氏旧蔵資料	令和6年度	北東～中央ユーラシアの歴史に関する資料 (ロシア語、中国語、モンゴル語ほか)	約1,100冊

なお、TRCCS専用書架が狭隘化していることから、資料を受け入れ順に自動書庫へ入庫することがTRCCS委員会から提案され、第4回運営委員会で承認された。

2.5 学内との連携

(1) 図書館実習（インターンシップ）への協力

板橋RASARL助教が令和6年8月30日に開催された令和6年度図書館実習（インターンシップ）において「アジア研究図書館の活動」と題する講義をおこなった。

(2) 学生協働

本学の学生支援オンキャンパスジョブ事業を利用し、修士課程学生1名、博士課程学生2名を雇用して当館所蔵資料のペルシア語・ロシア語・モンゴル語資料の整理をおこなった。この他、カウンター業務でも学生と協働している（関連項目：II-2.2.(1)利用者サービス）。

(3) 「教員著作物の可視化と国際発信」事業との連携

本学教員の著作について執筆者自らが紹介を行う UTokyo BiblioPlaza に、RASARL からは板橋助教が下記の共編著1件の紹介文を寄稿した。

- ・板橋暁子・河原弥生・河崎豊編『令和5年度東京大学アジア研究図書館展示図録 識字教育資料からアジアの社会をみる：ユネスコ・アジア文化センター寄贈コレクション』東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門、2023年

2.6 社会連携活動

(1) 国立国会図書館アジア情報関係機関懇談会参加

国立国会図書館関西館アジア情報室は、平成13年度からアジア情報関係機関間の交流を図り、国全体としてのアジア情報資源の充実とアジア情報の流通促進に資することを目的として国立国会図書館アジア情報関係機関懇談会を開催している。令和6年度は「アジア資料へのアクセス向上に関する取組と課題」をテーマとして、令和7年3月7日に関西館第一研修室で開催され、河原 RASARL 准教授が「利用されるためのアジア資料」と題したコメントおよび報告をおこなった。

河原 RASARL 准教授のコメント・報告は、先行しておこなわれた報告①～④へ質問を呈するとともに、各報告に共通してみられる、アジア資料へのアクセス向上を目指す上での課題（検索システムの改修や、検索に資する専門知識の提供等）を提示し、これらの課題をふまえた上での当館の取り組みを紹介したものである。また、個別発表後の全体討議では各機関の図書館関係者と情報交換がおこなわれた。報告資料は国立国会図書館ウェブサイトで公開されている。

2.7 海外機関との連携

(1) TRCCS からの資料寄贈

台湾国家図書館と東京大学附属図書館間の台湾漢学リソースセンター（TRCCS）協定に基づき、令和6年度も資料の寄贈を受けた。寄贈候補リスト受領後、令和6年5月27日に選書委員会を開催し寄贈希望リストを作成した。令和6年度は合計56冊受贈し当館に配架された。

(2) UCLA 東アジア図書館ライブラリアンの訪問

令和6年5月22日、前RASARL助教の河野正氏（国士舘大学21世紀アジア学部講師）の同伴で、UCLA東アジア図書館ライブラリアンのHong Cheng氏が総合図書館を訪問し、4階の当館見学時に紹介と交流をおこなった。

(3) スレイメノフ東洋学研究所所長の訪問

令和6年10月28日、Duken Masimhanuly氏（スレイメノフ東洋学研究所所長）が当館を訪問し、紹介と交流をおこなった。

(4) 南開大学歴史学院学生の訪問

令和6年11月1日、小林文治氏（南開大学歴史学院副教授）の引率により、同学院の学生30名が総合図書館を訪問し、4階の当館見学時に紹介と交流をおこなった。

(5) ベルリン自由大学ライブラリアンの訪問

令和6年11月8日、Cosima Wagner氏（ベルリン自由大学東アジア研究リエゾン・ライブラリアン）および南山泰之氏（国立情報学研究所特任助教）が総合図書館を訪問し、4階の当館見学時に紹介と交流をおこなった。併せて、同校のSibylle Söring氏がオンラインで参加した。

(6) デリー大学学生の訪問

令和6年11月18日、加藤隆宏准教授（本学人文社会系研究科）の引率により、JSTさくらサイエンスプログラムを通じて研修活動中のデリー大学学生8名が総合図書館を訪問し、4階の当館見学時に紹介と交流をおこなった。

(7) 復旦大学ライブラリアンの訪問

令和6年11月29日、復旦大学図書館副館長／教授の張楽天氏、同校図書館常務副館長／副教授の侯力強氏、同校副教授の王順箐氏、同校図書館副研究館員（データ部主任）の薛崧氏、同校図書館館員の胡傑氏が総合図書館を訪問し、4階の当館見学時に紹介と交流をおこなった。

(8) スリランカ高校生の訪問

令和7年2月28日、加藤隆宏准教授（本学人文社会系研究科）の引率により、JSTさくらサイエンスプログラムを通じて研修活動中のスリランカの高校生7名が総合図書館を訪問し、4階の当館見学時に紹介と交流をおこなった。

2.8 図書関係ワークショップ

(1) アジアンライブラリーカフェ No.8 「こんなにスゴイ！熱帯雨林地域@マレーシアの環境微生物」

アジアと図書館を楽しむU-PARLトークイベント・アジアンライブラリーカフェの第8回目として、令和7年2月28日、「こんなにスゴイ！熱帯雨林地域@マレーシアの環境微生物」をオンラインで開催した。本シリーズ登壇者としては初めての理系教員である原啓文氏（本学農学生命科学研究科特任教授）を講師に迎え、志水正敏氏（同研究科学術専門職員）による司会のもと、原氏が2013年から2021年までマレーシア工科大学マレーシア日本国際工科院で進めた熱帯雨林地域のユニークな環境微生物の探索とその有効利用に関する研究活動の紹介がおこなわれた。

2.9 アジア研究談話会

アジア研究図書館の研究部門（RASARL・U-PARL）に所属する教員が、主に附属図書館教職員に向けて自身の研究をわかりやすく解説し共有する場として、「アジア研究談話会」シリーズを令和6年度より開始した。令和6年度開催分は下記のとおり（いずれもオンライン開催）

- ・ 令和6年10月3日 河原RASARL准教授「イスラーム聖者から見たコーカンド・ハーン国史」
- ・ 令和6年11月1日 板橋RASARL助教「魏晋南北朝時代とジェンダー研究」
- ・ 令和6年12月6日 河崎RASARL助教「ジャイナ教の戒律」
- ・ 令和7年1月17日 蓑輪U-PARL部門長「仏教が目指したもの——瞑想（止観）から見える世界」

2.10 アジア研究図書館会議

(1) 運営委員会

令和6年度の運営委員会は以下の通りオンラインで開催された。

	開催日	出席委員数
第1回運営委員会	令和6年5月27日	12名
第2回運営委員会	令和6年7月22日	12名
臨時運営委員会	令和6年10月4日（メール審議）	—
第3回運営委員会	令和6年11月20日	13名
第4回運営委員会	令和7年2月17日	15名

(2) アジア研究図書館分館分室検討連絡会議

令和6年7月31日に前年度以来第3回のアジア研究図書館分館分室検討連絡会議が開催され、文学部漢籍コーナー運営委員会規則およびアジア研究図書館規則の改正等について報告がなされ、了承された（関連項目：II-2.3.(1)）。第4回は令和7年1月28日に開催され、今後は名称を「分館分室検討連絡会議」から「分館分室連絡会議」に改称すること、当館ウェブサイトに分館・分室情報を掲載すること、漢籍の寄贈先協議のための関係者メーリングリストを作成・運用すること等が了承された。

この他、RASARL・U-PARL間の部門間連絡会議（原則として毎月1回）も開催された。

2.11 統計

(1) 蔵書数、資料費総額、館外貸出冊数

令和6年度末配架冊数		単位：冊
地域別分類（開架・自動書庫・保存書庫等）		2024年度末配架冊数
1	アジア（東洋文庫を含む）	4,950
2	東アジア	28,058
3	東南アジア	8,082
4	南アジア	13,627
5	中央ユーラシア	5,051
6	西アジア	10,296
TRCCS	TRCCS	913
R1	参考図書（アジア）	31
R2	参考図書（東アジア）	406
R3	参考図書（東南アジア）	254
R4	参考図書（南アジア）	317
R5	参考図書（中央アジア）	169
R6	参考図書（西アジア）	234
その他		
	製本雑誌	938
	貴重書庫	5
	準貴重書庫	1
合計		73,332

貸出数		冊
		2,774
資料費		単位：千円
	RASARL	4,248
	U-PARL (データベース購入費・維持費含む)	3,506
	合計	7,754

III 研究事業

3.1 シンポジウム・学会等の開催・参加

(1) U-PARL サブジェクト・ライブラリアン・トーク「ハワイ大学マノア校日本研究司書・中村充孝氏を囲んで」

米国の大学におけるサブジェクト・ライブラリアンの職務をテーマとして、令和6年10月1日、U-PARL サブジェクト・ライブラリアン・トーク「ハワイ大学マノア校日本研究司書・中村充孝氏を囲んで」を開催した（会場：本郷キャンパス総合図書館4階レクチャールーム）。講師の中村氏により、勤務先であるハワイ大学図書館の日本研究特別資料の活用例を中心として、サブジェクト・ライブラリアンに求められる役割、ハミルトン図書館アジアコレクションの他の専門司書達との連携業務、米国の私立大学と州立大学における図書館司書の業務の違い等、米国のサブジェクト・ライブラリアンをめぐる状況について紹介がおこなわれた。次いで、講師と参加者との間で質疑応答と懇談の時間が設けられた。

(2) U-PARL 文理融合・東西融合ワークショップ「瞑想／観想を東西からみる」

瞑想／観想の研究者による研究アプローチの現状を共有し、瞑想指導のより良いありかたをテーマとして、令和6年10月6日、U-PARL 文理融合・東西融合ワークショップ「瞑想／観想を東西からみる」を開催した（会場：駒場キャンパス Komcee West K303）。

以下3つの発表がおこなわれ、次いで駒場キャンパス内にある坐禅堂「三昧堂」にて瞑想体験を実践し、リトリートをふまえた全体討論がおこなわれた。

- ・スティーブン・マーフィー重松（スタンフォード大学教授）

基調講演「Heartfulness has a way of living and dying」

- ・ 蓑輪顕量（本学人文社会系研究科教授／U-PARL 部門長）
話題提供「日本の仏教マインドフルネスにおける指導実践」
- ・ 藤田一照（曹洞宗僧侶）
話題提供「道元の普勧する坐禅」試論」

司会是高橋美保氏（本学教育学研究科教授／U-PARL 兼務教員）、趣旨説明は一色 U-PARL 特任准教授が務めた。

(3) U-PARL ワークショップ「近代植民地期の地図と写真」

U-PARL 購入資料の一部である植民地期(1910～45 年)「朝鮮半島地図」および「田中武雄氏旧蔵写真等資料」をテーマとして、令和 6 年 11 月 29 日、ワークショップ「近代植民地期の地図と写真」を開催した（会場：本郷キャンパス総合図書館大会議室）。元 U-PARL 特任研究員の川西裕也氏（新潟大学助教）と松田利彦氏（国際日本文化研究センター教授）が登壇し、専門家の観点から両資料の解説がおこなわれた。ついで座談会が開かれ、写真資料の現物を見ながら、登壇者と参加者が意見交換をおこなった。

(4) アジア研究図書館分館設立記念講演会「東文研図書室の新たな旅立ちに向けて」

本学東洋文化研究所図書室のアジア研究図書館分館化を記念し、同所の主催により、令和 6 年 12 月 20 日、アジア研究図書館分館設立記念講演会「東文研図書室の新たな旅立ちに向けて」が開催された（会場：本郷キャンパス東洋文化研究所大会議室（オンラインも併用））。アジア研究図書館関係者からは以下 2 つの講演がおこなわれた。

- ・ 太田絵里奈（U-PARL 特任助教）・森本一夫（東洋文化研究所教授／RASARL 兼務教員）
講演「ダイバー・コレクション：東文研アラビア文字写本群とその新たな電子公開に向けて」
- ・ 上原究一（東洋文化研究所准教授／U-PARL 副部門長）
講演「雙紅堂文庫の高崎藩大河内家旧蔵漢籍をめぐって」

(5) 「文化も薫る聖なる敷居——レザー廟図書館協力覚書調印記念展示」および記念セミナー

令和 6 年 3 月にイランのアースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー図書館・博物館・文書館機構（以下、レザー廟図書館）と当館の間の協定発足を記念して、令和 6 年 12 月 20 日～令和 7 年 1 月 31 日の約 1 か月間、「文化も薫る聖なる敷居——レザー廟図書館協力覚書調印記念展示」を開催した。1 月 10 日には、レザー廟研究の専門家を招聘し、下記のとおり記念セミナーを開催した（展示・セミナーとも会場は本郷キャンパス総合図書館）。

- ・森本一夫（東洋文化研究所教授／RASARL 兼務教員）
趣旨説明「アジア研究図書館とレザー廟図書館機構：いかなるマッチングか」
- ・杉山隆一（京都橘大学文学部准教授）
講演「イマーム・レザー廟の発展と文化活動」

(6) 「仏教研究とデジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム：大正新脩大藏經の 100 年 SAT の 30 年」

SAT 大藏經テキストデータベース研究会の主催により、令和 6 年 12 月 21 日～22 日、国内のデジタルアーカイブ、データベース、デジタル・ヒューマニティーズ等に従事する研究者や団体が参加する「仏教研究とデジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム：大正新脩大藏經の 100 年 SAT の 30 年」が開催された（会場：本郷キャンパス山上会館）。一色 U-PARL 特任准教授が登壇し、U-PARL が取り組んできたデジタル化事業についてポスター発表をおこなった。

(7) U-PARL シンポジウム：むすび、ひらくアジア 6「ボトルネックを乗り越える新時代のアーカイブ」

従来の「提供者」と「利用者」という枠を越え、Society 5.0 時代を見据えたデジタルアーカイブの新たな可能性を共に模索し課題を乗り越えるための討論の場として、令和 7 年 1 月 26 日、U-PARL シンポジウム：むすび、ひらくアジア 6「ボトルネックを乗り越える新時代のアーカイブ」を開催した（会場：本郷キャンパス福武ラーニングシアター）。

以下 4 つの発表と 2 つの展示がおこなわれた。

- ・大向一輝（人文社会系研究科附属次世代人文学開発センター准教授）
基調講演 1「デジタルアーカイブと AI：「提供者」と「利用者」の関係を再考するために」
- ・太田絵里奈（U-PARL 特任助教）／阿達藍留（人文社会系研究科修士課程）
報告 1「アラビア語写本アーカイブの再構築：研究者コミュニティによる協働型データベースの展望」
- ・澁谷秋（U-PARL 特任研究員）
報告 2「写真資料のアーカイブ化とその活用：田中武雄氏旧蔵写真等資料」
- ・アクマタリエワ ジャクシルク（U-PARL 特任研究員）
展示 1「絵と詩 少数民族ショルのこころ」
- ・太田絵里奈（U-PARL 特任助教）

展示2「ボードゲームの世界へようこそ 遊びに映された時代と社会」

・大井将生（人間文化研究機構／国立歴史民俗博物館特任准教授）

基調講演2「DAの繋ぎ目ボトルネック解消法：みんなで創る構築と活用の環」

総合討論モデレーターは渡邊英徳氏（情報学環・学際情報学府教授／U-PARL 兼務教員）、開会挨拶は蓑輪 U-PARL 部門長（人文社会系研究科教授）、閉会挨拶は一色 U-PARL 特任准教授が務めた。

(8) 国際会議 “Overcoming the Divide: Connectivity and Trust Building for Middle East Peace”

「信頼構築」というキーワードのもと、現在の中東情勢における分断状況の克服をテーマとして、科研費学術変革領域研究（A）「イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築」主催、U-PARL 協力のもと、令和7年2月22日～24日、国際会議 “Overcoming the Divide: Connectivity and Trust Building for Middle East Peace” が開催された（会場：本郷キャンパス山上会館）。

U-PARL 関係者からは、Team Daiber メンバーである太田 U-PARL 特任助教と澤裕章 U-PARL 特任専門職員が2月23日のポスター・セッションにて登壇し、“Co-Creating the Archive: Rebuilding the Arabic Manuscript Collection Database through a Collaborative Dialogue”（アーカイブを共に育てる：協働型の対話を通じたアラビア文字写本コレクションデータベースの再構築）というタイトルで、令和6年度より開始したアラビア文字写本集成「ダイバーコレクション」をめぐる協働型アーカイブ構築事業について報告をおこなった。

<Team Daiber>

太田絵里奈（U-PARL 特任助教、西アジア地域担当）

一色大悟（U-PARL 特任准教授、プロジェクト統括）

澤裕章（U-PARL 特任専門職員、メタデータ作成）

大向一輝（本学人文社会系研究科准教授、U-PARL 兼務教員）

阿達藍留（本学人文社会系研究科修士課程、β版アーカイブ構築）

(9) U-PARL 文理融合・東西融合フォーラム（むすび、ひらくアジア7）SHIBUYA QWS アカデミアスペシャル東京大学「“明日を心ゆたかに過ごすには？”アジアの視点からみる Society5.0」

2024年度のU-PARL事業テーマ「Society5.0における心のゆたかさ」の活動成果をもとに、①デジタルアーカイビングを用いた「学び」、②学びの中でも近年注目されているマインドフルネス（瞑想）、③最新の科学技術のまえでのアジアにおける価値、という三つの観点から、令和7年3月16日、U-PARL 文理融合・東西融合フォーラム（むすび、ひらくアジア7）「“明日を心ゆたかに過ごすには？”アジアの視点からみる Society5.0」をU-PARL が SHIBUYA QWS

Innovation 協議会と合同で開催した（会場：SHIBUYA QWS）。本イベントに合わせ、会場内ではアクマタリエワ U-PARL 特任研究員による「絵と詩 少数民族ショルのこころ」の展示がおこなわれた。

第一部「Society5.0 における学び」では以下 3 つの発表がおこなわれた（ディスカッサント：梶谷真司（総合文化研究科／教養学部附属共生のための国際哲学センター、センター長））。

- ・ガリーナ・ヴォロビヨワ（前ビシケク国立大学東洋国際関係学部日本語日本文学学科／キルギス日本語教師会会長）

講演「数学から日本語へ！文理と東西の越境と教育」

- ・太田絵里奈（U-PARL 特任助教）

話題提供 1「正しい＜面白い：問いを生み出すデジタルアーカイブの教育活用」

- ・小林真也（東京外国語大学大学院総合国際学研究科博士後期課程）

話題提供 2「ゲーミフィケーションによる学びの未来」

第二部「瞑想の東西」では以下 3 つの発表がおこなわれた（ディスカッサント：高橋美保（本学教育学研究科/U-PARL 兼務教員））。

- ・渋谷田鶴子（公益財団法人渋谷栄一記念財団業務執行理事／東京マインドフルネスセンター客員講師）

基調講演「社会の安らぎ：無畏施とフィアレスネス——日米におけるマインドフルネスの体験から」

- ・蓑輪顕量（人文社会系研究科教授／U-PARL 部門長）

話題提供 1「瞑想の目指したもの——安らぎと活力へ繋がる世界」

- ・高橋美保（教育学研究科教授／U-PARL 兼務教員）

話題提供 2「個人のライフキャリアとコミュニティに生かすマインドフルネス——東洋の価値観がもたらすもの」

第三部「自然科学をまえにした価値」では以下 4 つの発表がおこなわれた（ディスカッサント：小林牧（東京国立博物館名誉館員・客員研究員））。

- ・佐倉統（情報学環・学際情報学府教授）

話題提供 1「ロボットのお葬式：人と機械の関係の文化誌」

- ・一色大悟（U-PARL 特任准教授）

話題提供 2「日本で地球が丸くなったとき：仏教が探したヒューマンスケールの価値」

- ・海野聡（工学系研究科准教授／U-PARL 副部門長）

話題提供 3「大工の知恵と建築学 伝統知と近代知の共鳴」

- ・小林牧（東京国立博物館名誉館員・客員研究員）

講演「デジタル活用で博物館体験は豊かにできる？」

総合司会は松本武祝氏（農学生命科学研究科教授／U-PARL 兼務教員）、開会挨拶は三島龍氏（本学執行役）、閉会挨拶は蓑輪 U-PARL 部門長が務めた。

(10) 国際シンポジウム "The Libraries and Archival Practices in the Early Modern Eastern Islamic World "

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（共同利用・共同研究課題「中近世西アジアにおける史的テキストの参照・改変・転用とその主体・受容者についての国際的・学際的研究」・基幹研究「『記憶』のフィールド・アーカイビング：イスラームがつなぐ共生社会の動態の解明」）と当館の共催により、また Association for the Study of Persianate Societies 日本事務所・東京大学東洋文化研究所（班研究「ペルシア語文化圏研究」）の協賛を受け、令和7年3月20日、国際シンポジウム"The Libraries and Archival Practices in the Early Modern Islamic East" を開催した（会場：アジア・アフリカ言語文化研究所大会議室（オンラインも併用））。

(11) アジア研究図書館ワークショップ "Typology of the Documents from the Safavid Period in the Astan-e Ghods"

上記(5)と同じくレザー廟と当館の協定発足を記念して、令和7年3月22日～23日、レザー廟図書館からペルシア語の行政文書研究の専門家を招聘し、アジア研究図書館ワークショップ“Typology of the Documents from the Safavid Period in the Astan-e Ghods”を開催した（会場：本郷キャンパス東洋文化研究所（オンラインも併用））。報告等はペルシア語で実施された。

3.2 成果の公開

(1) 高島俊男原著、荒木達雄・石川就彦・藤村明日香翻刻／校注『翻刻 高島俊男《水滸伝語彙辞典稿》 D の部（下）・E の部』

（U-PARL、令和6年11月）

(2) 高島俊男原著、荒木達雄・石川就彦・伊藤和子翻刻／校注『翻刻 高島俊男《水滸伝語彙辞典稿》 L の部』

（U-PARL、令和7年1月）

上記2点は、2022-2023年度 U-PARL 協働型アジア研究「東京大学蔵『水滸伝』諸版本デジタルデータの整備およびこれを用いた研究」（代表：荒木達雄 U-PARL 特任研究員）終了後も引き

続き取り組まれてきた、中国文学研究者の故・高島俊男氏『水滸伝語彙辞典稿』未公刊原稿等を翻刻する作業の成果の一部として刊行されたものである。

このほか、令和3年度に創刊された「アジア研究図書館叢書」の続刊として、第7巻・第8巻が令和7年3月にRASARLより刊行された。

(3) 河崎豊編『アジア研究図書館叢書7 アジア研究図書館所蔵南アジア地域研究プロジェクト 東京大学拠点 (TINDAS) 寄贈資料目録』

南アジア地域研究東京大学拠点 (TINDAS) が活動を終了する2021年度を期に、TINDAS がその拠点形成のために収集してきた資料群を、TINDAS 代表の田辺明生氏 (総合文化研究科教授 (当時)) を通じて当館が受贈し、整理した目録である。

図書461点の書誌情報を収録し、大半が英語資料であるが、日本語のほかベンガル語・ヒンディー語などのインド諸言語資料も含まれる。

(4) 鈴木舞編『アジア研究図書館叢書8 東京大学文学部考古学研究室漢籍分類目録』

文学部考古学研究室が2018年3月段階で所蔵していた漢籍の書誌情報を、四部分類により整理した目録である。史部が全体の8割を占め、そのうち青銅器を中心とした出土文字資料あるいは出土資料 (青銅器・甲骨・瓦当・銭幣・石刻・石鼓文・簡牘など) に関する書籍、そして地方志などの地理書といった2系統が多数を占める。本目録所載資料のうち洋装本の多くは当館へ移管されている。巻末の解題では、東京帝国大学時代以来の考古学研究室における蔵書形成の推移や所蔵漢籍の特徴について整理がおこなわれる。

3.3 個人研究業績

期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日

略号：①書籍 ②雑誌論文・本の一章 ③その他刊行物等 ④口頭発表 ⑤受賞
⑥競争的資金 ⑦社会活動・教育活動等

(1) RASARL メンバー

佐川英治 (館長・RASARL 部門長・兼務教員／人文社会系研究科教授)

②佐川英治「戦争と王権：『商君書』にみる「強国」「天下」と軍功爵制」、宮宅潔編『暴力のありか：中国古代軍事史の多角的検討』、臨川書店、2024年4月、288-314頁。

②佐川英治「鄴都：曹魏の城郭構造とその展開」、公益財団法人東洋文庫中国古代地域史研究グループ編『水経注疏訳注 濁漳水篇』東洋文庫、2025年3月、55-69頁。

- ③佐川英治「書評 目黒杏子著『漢王朝の祭祀と儀礼の研究』」、『古代文化』76(3)、2024年12月、129-131頁。
- ③佐川英治「書評 渡辺信一郎著 汲古書院『中国古代国家論』」、『中国研究月報』78(11)、2024年11月、38-41頁。
- ④佐川英治「もう一つの都城史：建康から藤原京へ」、国際研究集会「建康研究の過去と現在」、大東文化大学、2024年12月21日。
- ④佐川英治「北魏の「子貴母死」と「皇后無子」：古代末期の婚姻の機能をめぐって」、第122回史学会大会、東京大学、2024年11月9日。
- ④佐川英治「「都城」という礼器：古代中国における中軸線の形成と機能」、第20回メトロポリタン史学会シンポジウム「権力と空間の比較史」、東京都立大学、2024年9月21日。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（C））「初期碑文慣行を通じてみる中国古代の社会結合の特徴に関する研究」課題番号23K00878、研究代表者、2023年度～2025年度。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（A））「南縁・東縁地域における郡県都市の変容からみた「漢帝国の遺産」の東アジア史的意義」課題番号21H04367（研究代表者：黄曉芬）、研究分担者、2021年度～2026年度。
- ⑦放送大学客員教授 「中国と東部ユーラシアの歴史」第1回～第5回。
- ⑦公益財団法人東洋文庫研究員（客員）。
- ⑦会議運営 「国際学術シンポジウム「中国古代的知識、信仰与地域」」、東京大学、2024年8月7日。
- ⑦コメンテーター 第24回魏晉南北朝史研究大会シンポジウム「魏晉南北朝史の国制の諸問題」、お茶の水女子大学、2024年9月14日。

森本一夫（RASARL 兼務教員／東洋文化研究所教授）

- ①森本一夫『アリー：伝説になった神の獅子』、山川出版社、2024年4月、96頁。
- ②Kazuo Morimoto, “Ibn ‘Inaba’s Oeuvre,” in Laura Bottini and Cristiana Baldazzi (eds.), *Il mondo musulmano: Religione, storia, letteratura. Studi in memoria di Biancamaria Scarcia Amoretti*, Rome: Istituto per l’Oriente C.A. Nallino, 2024, pp. 173–202.
- ②Kazuo Morimoto, “A Compendium of Sayyid/Sharīf Genealogy in Diagrammatic Format from the Late Tenth Century,” in Markus Friedrich and Jörg B. Quenzer (eds.), *Genealogical Manuscripts in Cross-Cultural Perspective*, Berlin: De Gruyter, January 2025, pp. 31–61.
- ②Kazuo Morimoto, “An *Ijāza* for Examining Genealogies of Sayyids and Sharīfs from Fifteenth-Century Najaf,” Rasūl Ja‘fariyān, Gūdarz Rashtiyānī, Shahrām Yūsufi-far (eds.), *Zi Hāmūn sū-yi*

gardūn: Jashn-nāma-’i Duktur Manṣūr Şifatgul: Maqālātī darbāra-’i tārīkh, farhang wa tamaddun-i Īrān-i ‘aṣr-i Şafawī, Tehran: Nigāristān-i Andīsha, February 2025, pp. 31–46.

②森本一夫「ムスリム共同体と預言者ムハンマド一族：血統による権威と聖性の「継承」」、赤堀雅幸編『イスラームにおける聖性の継承：預言者、聖者の血統と聖遺物（SIAS Lectures 12）』、上智大学イスラーム地域研究所、2025年3月、17–36頁。

③森本一夫「アースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー図書館・博物館・文書館機構との協力覚書調印について」、『アジア研究図書館（東京大学アジア研究図書館ニューズレター）』16、2024年7月、1–5頁。

④森本一夫「15世紀のイラクで記されたある免状のお話」、東京大学東洋文化研究所ミニ研究会、東京大学、2024年5月16日。

④Kazuo Morimoto, “Sayyids and Sharifs: The Kinfolk of the Prophet Muhammad in Muslim Societies,” invited lecture at the Department of Arabic Language and Culture, National Chengchi University, Taipei, June 3, 2024.

④Kazuo Morimoto, “Itinerant Genealogists from the Shii Community in Iraq in the Era of ‘Confessional Ambiguity’: In Pursuit of the Interests of the Community?” invited lecture at the Department of Arabic Language and Culture, National Chengchi University, Taipei, June 5, 2024.

④Kazuo Morimoto, “Eventful Lives of a Sayyid/Sharīf Genealogy: Different Usages, Different Transformations.” German-Japanese Bilateral Conference “Textual Transmission in the Islamic Manuscript Age: On the Variance, Reception, and the Usage of Arabic and Persian Works from the Middle East to the Indian Subcontinent,” University of Münster, September 7, 2024.

④太田絵里奈・森本一夫「ダイバー・コレクション：東文研アラビア文字写本群とその新たな電子公開に向けて」、アジア研究図書館分館設立記念講演会「東文研図書室の新たな旅立ちに向けて」、東京大学（東洋文化研究所大会議室とオンラインを併用）、2024年12月20日。

④森本一夫「アジア研究図書館とレザー廟図書館機構：いかなるマッチングか」、「文化も薫る聖なる敷居：レザー廟図書館協力覚書調印記念セミナー」、東京大学、2025年1月10日。

④森本一夫「13世紀のカイロに生きたある「ナジャフイー」をめぐって」、日本学術振興会カイロ研究連絡センター第10回懇話会、オンライン開催、2025年1月11日。

⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（B））「「スンナ派」と「シーア派」：自己意識と相互認識のイスラーム史研究にむけて」課題番号 23H00674、研究代表者、2023年度～2026年度。

⑦森本一夫「イスラームにおける人物像の神話化：伝説になった神の獅子、アリー」栃木県オリエント協会オリエントセミナー、栃木県立博物館、2024年5月18日。

⑦非常勤講師 京都大学文学部・大学院文学研究科「預言者ムハンマド一族から見るイスラーム史」、夏期集中講義。

河原弥生 (RASARL 准教授)

②河原弥生「アジア資料の収集・整理・保存・提供の実際」、『情報の科学と技術』75(3)、2025年3月1日、111-116頁。

③河原弥生「蔵書紹介：在外ウイグル人に関する資料コレクションについて」、『アジア研究図書館（東京大学アジア研究図書館ニューズレター）』17、2024年10月、1-13頁。

③河原弥生「蔵書紹介：アースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー図書館・博物館・文書館機構からの寄贈資料について」『アジア研究図書館（東京大学アジア研究図書館ニューズレター）』18、2025年1月、7-10頁。

④河原弥生「19世紀初頭の中央アジアの知識人が見たシーア派世界」、科学研究費補助金「「スンナ派」と「シーア派」：自己意識と相互認識のイスラーム史研究にむけて」2024年度第1回研究会、2024年8月5日。

④河原弥生「イスラーム聖者から見たコーカンド・ハーン国史」、アジア研究談話会、オンライン開催、2024年10月3日。

④河原弥生「19世紀の中央アジアとイラン北東部におけるスンナ派とシーア派の相互認識」、科学研究費補助金「「スンナ派」と「シーア派」：自己意識と相互認識のイスラーム史研究にむけて」2024年度第2回研究会、2025年2月23日。

④河原弥生「利用されるためのアジア資料（コメント）」、国立国会図書館関西館令和6年度アジア情報関係機関懇談会、2025年3月7日。

④河原弥生「18-19世紀のコーカンドにおけるマフドゥームザーダー派について」、日本中央アジア学会2024年度年次大会、2025年3月15日。

⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（C））「19世紀初頭の中央アジア知識人の著作と世界認識：歴史叙述と旅行記の検討を通して」課題番号21K00903、研究代表者、2021年度～2024年度。

⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（B））「「スンナ派」と「シーア派」：自己意識と相互認識のイスラーム史研究にむけて」課題番号23H00674（研究代表者：森本一夫）、研究分担者、2023年度～2026年度。

⑦非常勤講師 東京外国語大学言語文化学部「現代ウズベク語の成立」。

- ⑦非常勤講師 駒澤大学文学部「東洋史特講 VA」「東洋史特講 VB」。
- ⑦東京大学東洋文化研究所、研究班「スナ派」と「シーア派」：自己意識と相互認識のイスラーム史」（主任：森本一夫）、共同研究者。

河崎豊（RASARL 助教）

- ①河崎豊（編）『アジア研究図書館所蔵南アジア地域研究プロジェクト東京大学拠点（TINDAS）寄贈資料目録』、東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門、2025 年 3 月。
- ①Hiroko Nagasaki, So Yamane, Yutaka Kawasaki (eds.), *Currents of Metamorphosis across the Indian Ocean*. Kyoto and Vizianagaram: Kotoba Books, 2025.
- ②河崎豊「ジャイナ教戒律研究の動向と今後の展望」、岸野亮示（編）『戒律研究へのいざない』、臨川書店、2024 年 9 月、228-292 頁。
- ②河崎豊「ハリバドラの着衣擁護論」、『佛教學セミナー』120、2024 年 12 月、65-84 頁。
- ②河崎豊「Brhatkathākośa における kāyotsarga」、『ジャイナ教研究』30、2025 年 3 月、69-103 頁。
- ③河崎豊「日本人によるジャイナ教に関する研究など（英文）——レファレンス事例として——」、『アジア研究図書館（東京大学アジア研究図書館ニューズレター）』15、2024 年 4 月、13-24 頁。
- ③河崎豊「理念と現実」、岸野亮示（編）『戒律研究へのいざない』、臨川書店、2024 年 9 月、293-297 頁。
- ③河崎豊「中期インド語ジャイナ教文献を読むために」、梶原三恵子（編）『インド語インド文学拾遺 2025』、2025 年 3 月、1-16 頁。
- ③河崎豊「ジャイナ教書誌備忘」、『ジャイナ教研究』30、2025 年 3 月、105-115 頁。
- ④Yutaka Kawasaki, “Philosophy and Ethics of the Jain Fast unto Death (*sallekhanā*)”, *Ethics and Philosophy of Extreme Fasting in Eastern and Western Traditions*, Universität Bern, May 31, 2024.
- ④河崎豊「戒律解釈と説話——白衣派ジャイナ教戒律文献における」、日本印度学仏教学会第 75 回学術大会、駒澤大学、2024 年 9 月 8 日。
- ④河崎豊「ジャイナ教の戒律」、アジア研究談話会、オンライン開催、2024 年 12 月 6 日。
- ④河崎豊「ジャイナ教文献のなかのクシャトリヤと戦争」、第 5 回 HINDOWS 文学研究会「戦争と文学」、オンライン開催、2025 年 3 月 29 日。
- ⑦講師 公開講演「ジャイナ教」BDK 連続講座「ブッダの隣人 ～インドの宗教と仏教～」、仏教伝道センタービル、2024 年 10 月 7 日。
- ⑦兼任講師 中央大学文学部「インド哲学史通覧」。

- ⑦非常勤講師 筑波大学人文・文化学群人文学類「比較思想論-b」「東洋宗教思想史演習 I-b」。
- ⑦東京大学東洋文化研究所、研究班「上座部文献の研究」（主任：馬場紀寿）。
- ⑦環インド洋地域研究・大阪大学拠点（HINDOWS）、研究分担者。

板橋暁子（RASARL 助教）

- ②板橋暁子「東晋中期における「内」と「外」：慕容皝の遣使・書簡を手がかりに」、『六朝学術学会報』25、2024年6月、85-101頁。
- ②板橋暁子「高歡に嫁いだ茹茹公主の處遇をめぐる諸問題」、『中國出土資料研究』28、2024年7月、67-96頁。
- ②板橋暁子「『水経注疏』卷十 濁漳水」、公益財団法人東洋文庫中国古代地域史研究グループ編『水経注疏訳注 濁漳水篇』、東洋文庫、2025年3月、79-99頁（分担執筆）。
- ③板橋暁子「顧愷之「女史箴図」と張華『女史箴』」、『山川歴史 PRESS』20、2024年6月、10-13頁。
- ③板橋暁子「2024年度図書館総合展 出展報告」『アジア研究図書館（東京大学アジア研究図書館ニューズレター）』18、2025年1月、4-6頁。
- ④板橋暁子「论西晋末年册封拓跋猗卢为代公、代王」、国際学術シンポジウム「中国古代的知識・信仰与地域」、東京大学、2024年8月7日。
- ④板橋暁子「魏晋南北朝時代とジェンダー研究」、アジア研究談話会、オンライン開催、2024年11月1日。
- ④板橋暁子「日本的中國史研究動向與學會活動：以中古史、性別史爲中心」、『史原』論壇、オンライン、2025年1月9日。
- ⑥三島海雲記念財団 2024年度学術研究奨励金（人文科学部門個人研究奨励金）「唐代における族内秩序の研究：妻と妾を中心として」、研究代表者、2024年7月～2025年7月。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（A））「東アジアはなぜ少子化するのか——「家族主義」を問うリプロダクションの比較歴史社会学」課題番号 24H00156（研究代表者：小浜正子）、研究分担者、2024年度～2027年度。
- ⑦非常勤講師 法政大学市ヶ谷リベラルアーツ「東洋史 I/II」。
- ⑦非常勤講師 聖心女子大学現代教養学部「世界史文献講読II-1 (1)/(2)」。
- ⑦非常勤講師 学習院大学「東洋史特殊講義（学部）／東洋史特殊研究（大学院）」。

(2) U-PARL メンバー

蓑輪顕量（U-PARL 部門長・兼務教員／人文社会系研究科教授）

- ①蓑輪顕量編『日本を変えたすごい僧侶図鑑』、産業編集センター、2024 年 9 月。
- ②蓑輪顕量「大乘仏教から考える戦争と平和——『法華経』『涅槃経』を手がかりに」、鈴木薫編『講義 宗教の「戦争」論』、山川出版社、2024 年 7 月、193－202 頁。
- ③蓑輪顕量「スリランカ瞑想調査記」、『仏教文化』第 63 号、2025 年 3 月、52-72 頁。
- ④蓑輪顕量「中世天台の止観に関する一考察——アジア世界における止観の歴史的展開を踏まえて——」、日本印度学仏教学会第 75 回学術大会特別部会、駒澤大学、2024 年 9 月 7 日。
- ④蓑輪顕量「仏教における修行道の展開——観の二つの傾向——」、日本宗教学会第 83 回学術大会第 7 部会、天理大学、2024 年 9 月 14 日。
- ④蓑輪顕量「観の内実より大乘の起源を探る」北京大学哲学科研究会、2024 年 12 月 22 日。
- ④蓑輪顕量「人文学から見た ELSI の一側面——ムーンショット 9 の研究に参加して体験した事例を中心に——」東京大学大学院人文社会系研究科研究倫理研究会、東京大学、2025 年 1 月 30 日。
- ④蓑輪顕量「仏教瞑想とマインドフルネス——その歴史的展開について——」、同朋大学&東海印度学仏教学会（共催）、同朋大学、2025 年 2 月 13 日。
- ④蓑輪顕量「仏教の伝えた瞑想——止観の目指したものとその変遷」、大阪三津寺真言宗大阪御室青年会研修会、2025 年 2 月 21 日。
- ④蓑輪顕量「法華信仰の供養」、成田山仏教文化講座・成田山仏教文化研究所、2025 年 3 月 8 日。
- ④蓑輪顕量「仏教の止観の目指したものと現代社会への応用の可能性」、中国人民大学仏教与宗教学理論研究所、2025 年 3 月 18 日。
- ④蓑輪顕量「心の拡張性を静める——釈尊の見いだした道——」、北日本新聞社新川支社主催「にいかわ政経懇話会 3 月例会」、富山県魚津市、2025 年 3 月 26 日。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（A））「仏教学・心理学・脳科学の共同による止観の総合的研究」課題番号 22H00001、研究代表者、2022 年度～2026 年度。
- ⑥ムーンショット 9 課題推進者（仏教文献調査と瞑想デザイン）。

上原究一（U-PARL 副部門長・兼務教員／東洋文化研究所准教授）

- ②上原究一「人中の呂布と錦の馬超——『三国志演義』のイケメン枠」、『アジア遊学』295、2024 年 9 月、152-177 頁。

②上原究一「葉限——「中国のシンデレラ」は漢民族のシンデレラだったのか?」、北村紗衣・小森謙一郎・嶋内博愛・戸塚学編『シンデレラの末永く幸せな変身』、水声社、2025年2月、143-163頁。

④上原究一「誰が呂布を最強にしたのか——古典文学におけるキャラクターと「作者」たち」、東京大学東アジア藝文書院主催「第20回藝文学研究会」、東京大学、2024年5月15日。

④上原究一「誰將呂布寫成「最強」?——現代日本亞文化中的呂布形象」、「明清文學在東亞」學術研討會（中央研究院「東亞文化交流視域下的城市書寫」主題計畫）、中央研究院中國文哲研究所、2024年8月30日。

④上原究一「雙紅堂文庫の高崎藩大河内家旧蔵漢籍をめぐって」、アジア研究図書館分館設立記念講演会「東文研図書室の新たな旅立ちに向けて」、東京大学、2024年12月20日。

④上原究一「西遊記」、中国古典小説研究会主催「中国古典小説のここが面白い!」第1回「研究者、押し作品を語る」、龍谷大学、2025年3月23日。

松本武祝（U-PARL 兼務教員／農学生命科学研究科教授）

②松本武祝「植民地朝鮮における水利組合の組織運営に関する事例研究——古阜水利組合を対象として——」、『アジア経済』65(2)、2024年6月、22-52頁。

②松本武祝「식민지 조선에서 하천수 이용을 둘러싼 이해 대립과 조정과정——東津水利組合의 사례분석（植民地朝鮮における河川水利用をめぐる対立と調整過程——東津水利組合の事例分析）」、『大東文化研究』128、2024年12月、299-339頁。

高橋美保（U-PARL 兼務教員／教育学研究科教授）

①クリスティーナ・フェルドマン／ウィレム・カイケン著、高橋美保／藤田一照監訳『仏教と心の科学の出会い——マインドフルネス——』、北大路書房、2024年11月（原著：Christina Feldman, Willem Kuyken. *Mindfulness: Ancient Wisdom Meets Modern Psychology*. New York: Guilford Press, 2019.）。

②高橋美保「日本の心理療法“内観療法”の可能性——素直になるということ」『内観研究』30(1)、2024年9月、3-11頁。

④Miho Takahashi. “Psychological Effects of COVID-19: An International Comparative Study of Japan and Korea”, 2024 SKKU International Conference, online, 2024.

⑦高橋美保「個人のライフキャリアとコミュニティに生かすマインドフルネス—東洋の価値観がもたらすもの」話題提供者・司会、U-PARL 文理融合・東西融合フォーラム（むすび、

ひらくアジア 7) SHIBUYA QWS アカデミアスペシャル東京大学「“明日を心ゆたかに過ごすには？”アジアの視点からみる Society5.0」、SHIBUYA QWS、2025 年 3 月 16 日。

⑦ “The Buddhist Students Team of Moonshot 9 Workshop”, WELL-BEING and WELL-GOING “Well-being and Resilience” Lecturer, 2024.

⑦ 「Kind ways～優しい生き方～ 出版記念セミナー クリスティーナ・フェルドマン、ウィレム・カイケン『仏教と心の科学の出会い マインドフルネス』 特別ゲスト、2025 年。

渡邊英徳 (U-PARL 兼務教員／大学院情報学環教授)

②渡邊英徳『令和 6 年度版 小学社会 6』(カラー化写真監修)、教育出版、2024 年 4 月。

②渡邊英徳「“ストック”された震災写真のカラー化と“フロー”の生成」、目黒公郎編『関東大震災と東京大学：教訓を首都直下地震対策に活かす』、東京大学出版会、2024 年 12 月。

②渡邊英徳「能登半島地震の(リアルタイム)デジタルアーカイブ」『デジタルアーカイブ学会誌』8 (4)、2024 年 12 月、152-156 頁。

②原田真喜子・パリハティ グリズバ・渡邊英徳「異文化情報の偏りへの気づきを促すワークショップの実践」、『教育メディア研究』31 (2)、2025 年 3 月、15-26 頁。

②大井将生・中村寛・大向一輝・渡邊英徳「S×UKILAM 教材アーカイブの LOD 化とその応用」『デジタル・ヒューマニティーズ』4 (1)、2025 年 3 月、13-24 頁。

④渡邊英徳・樋口恭介・山根圭輔「すべてが“いま・ここ”になる時代のデータと組織」、Accentuate TechVision EDGE、2024 年 4 月 24 日。

④曹好・渡邊英徳「「平和のかげら」ワークショップ」、TBS「地球を笑顔にする WEEK」、2024 年 5 月 2 日。

④Noriyuki Yoshida, Shinnosuke Komiya, Hidenori Watanave, “Build Disaster Resilient Cities: Disaster Response Operations using Digital Twin,” SusHi Tech Tokyo Global Startup Program, May 15, 2024.

④渡邊英徳「戦災・災害のデジタルアーカイヴ」、有楽町アートアーバニズム(YAU)×東京藝術大学社会共創科目(公開授業)、2024 年 5 月 16 日。

④渡邊英徳・指原佑佳「衛星写真・データで読み解くガザの「現在」」、パレスチナ子どものキャンペーン、2024 年 5 月 28 日。

④渡邊英徳「大災害にリアルタイムで対応する情報デザイン」、第 138 回 (2024 年春季) 東京大学公開講座「制約と創造」、2024 年 6 月 29 日。

④渡邊英徳・片山美咲「戦災・災害のデジタルアーカイブ」、東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム、2024 年 7 月 6 日。

- ④Masashi Sato, Hidenori Watanave, Kenjiro Murakami, Shinichi Sobue, Yuichiro Usuda, “Panel Discussion: How Can Satellite Networks Save More Lives Faster? The Noto Peninsula Earthquake Case,” SPACETIDE 2024, July 9, 2024.
- ④渡邊英徳「大災害にリアルタイムで対応する情報デザイン」、オープン QUICK2024、2024 年 7 月 11 日。
- ④渡邊英徳・中村涼香「ミライの平和活動」、2024 ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ、2024 年 8 月 7 日。
- ④渡邊英徳・指原佑佳「デジタルアーカイブと人間の安全保障：「災いの記憶」を衛星画像や SNS から記録・分析・発信する」、緒方研究所「人間中心のデジタル化」研究会セミナー、2024 年 9 月 5 日。
- ④Hidenori Watanave, “Interactive Visualization of Disasters: Digital Archives and Community Collaboration,” TRENDS-RCAST of the University of Tokyo 4th Annual Conference on Sustainable Security in 2024 and Beyond – The Role of AI, September 19, 2024.
- ④渡邊英徳「デジタルツインと AI カラー化による“ストック”された記憶の“フロー”化」、日本認知科学会第 41 回大会 オーガナイズドセッション (OS-2-5) 体験性の認知科学、2024 年 10 月 13 日。
- ④渡邊英徳「戦災・災害のデジタルアーカイブ」SEEDS カンファレンス 2024、2024 年 10 月 14 日。
- ④渡邊英徳・藤井直敬「現実科学レクチャーシリーズ Vol.54」、現実科学レクチャーシリーズ、2024 年 12 月 16 日。
- ④Hidenori Watanave, Yuuka Sashihara, “Rebooting Memories With Advanced Technologies,” International Seminar: War Crimes Archiving, February 20, 2025.
- ⑤中村涼香・金達也・黒田夢奈・渡邊英徳研究室「アート&ニューメディア部門最優秀賞」あたらしいげんばく展、NYAA 2024、2025 年 3 月。
- ⑤Atsuhiko Yamaguchi, Katsutoshi Amano, Sumire Hamatsu, Yumi Iida Juliet, Hidenori Watanave.Best Student Paper Presentation Award,kaleidomap: An Artistic Collage Map Highlighting the Diversity of Map Expressions, The First Asian Cartographic Conference (AsiaCarto2024), December 2024.
- ⑤読売新聞東京本社編集局写真部・東京大学渡邊英徳研究室（学術指導）「マップギャラリー2024 ストーリーマップ部門」第 1 位「59 か所の定点空撮で見る東日本大震災」ESRI ジャパン GIS コミュニティフォーラム、2024 年 5 月。

- ⑥「災害地域の多元的デジタルアーカイブスの研究開発」、株式会社 QUICK、共同研究費、2024 年 8 月～2026 年 7 月。
- ⑥「先端技術を活用した報道手法のアップデートを目的とした共同研究」、日本テレビホールディングス株式会社、共同研究費、2025 年 2 月～2026 年 3 月。
- ⑦渡邊英徳「台湾地震・衛星画像マップ」、2024 年 4 月 4 日。
- ⑦渡邊英徳研究室「読売新聞創刊 150 周年記念「テクノロジーと報道展」」、読売新聞本社、2024 年 5 月 27 日～31 日。
- ⑦東京大学大学院渡邊英徳研究室「ミライの平和活動展 in 長崎」、長崎市役所、2024 年 8 月 3 日～8 日。
- ⑦制作：読売新聞社、学術指導：東京大学大学院渡邊英徳研究室「戦後 79 年 写真が語る戦後大阪」、2024 年 8 月 30 日。
- ⑦主催：KNOWNUKES TOKYO、共催・監修：東京大学大学院情報学環渡邊英徳研究室「あたらしいげんばく展」、東京大学、2024 年 9 月 5 日～8 日。
- ⑦渡邊英徳研究室「能登半島地震・水害 崩壊範囲 3D マップ」、2024 年 9 月 27 日。
- ⑦主催：赤十字国際委員会(ICRC)・日本赤十字社・在日スイス大使館、後援：神奈川県、協力：東京大学大学院渡邊英徳研究室・八王子平和・原爆資料館「War in Cities～戦争の街を体感する」、みなとみらいギャラリーA、2024 年 12 月 18 日～25 日。
- ⑦石川県 × 東京大学大学院渡邊英徳研究室「能登半島災害 3D データ」2024 年 12 月 27 日。
- ⑦主催：東京大学大学院情報学環・株式会社 QUICK「災害デジタルアーカイブの最前線」、石川県立図書館、2025 年 1 月 15 日。
- ⑦主催：神奈川県、共催：駐日ウクライナ大使館・ウクライナ文化センターUKRAINE HOUSE JAPAN、協力：東京大学大学院渡邊英徳研究室・UNHCR 駐日事務所・国連 UNHCR 協会・NPO 法人アルペなんみんセンター「ウクライナ企画展「写真と映像で見るウクライナ」」、新都市プラザ、2025 年 3 月 1 日～2 日。
- ⑦主催：東京大学、共催：アルジャジーラ・ベイルート アメリカン大学・株式会社 QUICK「Beyond the Headlines ～データ・メディア・テクノロジーで読み解くガザ危機の深層～」、東京大学、2025 年 3 月 31 日。
- ⑦内閣府デジタルアーカイブ戦略懇談会構成員
- ⑦一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会 3D 都市モデルの整備・活用・オープンデータ化 促進に関する産学官連携協議会アドバイザー ボード委員
- ⑦大分県教育委員会大分県立佐伯鶴城高等学校スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業に係る運営指導委員

⑦デジタルアーカイブ学会理事

海野聡（U-PARL 兼務教員／工学系研究科准教授）

- ①海野聡『古建築を受け継ぐ メンテナンスからみる日本建築史』、岩波書店、2024 年。
- ②海野聡「和様は唐の様式？—建築の国風化から和様へ」、『20 のテーマでよみとく日本建築史』吉川弘文館、2025 年。
- ②海野聡「前期難波宮と藤原宮にみる古代宮殿の内裏・朝堂院の空間構成と重層建築」、『前期難波宮・藤原宮の儀礼と空間構成』、東京大学大学院工学系研究科建築学専攻海野研究室、2024 年 11 月、47～71 頁。
- ④UNNO Satoshi. “The Historical Significance of the Historical Documents of “Yoshi-Rai” in the Collection of the University of Tokyo and the Historical Documents of Craftsmen in East Asia,” 「東京大学所蔵の様式雷関連史料の史料的意義と東アジアの工匠関連史料」、「様式雷」世界記憶遺産研究会」、2024 年 4 月 14 日。
- ④海野聡「隋唐代における日本の宮殿の空間構成と東アジア（隋唐时期日本宮殿的空間構成及其与东亚世界的关系）」、『唐代之風』online、2024 年 12 月 1 日。
- ④UNNO Satoshi. “Framework for Joinery and Window Research in Ancient and Medieval Japan (古代・中世の日本における建具・窓研究のフレームワーク), “Comparative Study on Fittings and Windows in East Asia (東アジアにおける建具・窓に関する比較研究)”, 南京工業大学、2024 年 11 月 2 日。
- ⑤日本イコモス奨励賞 2024 (受賞題名「日本における木造建造物の継承思想の特質と保存に関する一連の調査・研究と著作」)。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（A））「東アジアにおける工匠関連史料にもとづく建築生産史の再構築と技術蓄積・伝播の解明」課題番号 22H00231、研究代表者、2022 年度～2026 年度。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（挑戦的研究（萌芽））「美術史学・考古学・建築史学の複合手法による東アジア建築技術伝播ルートの解明」課題番号 22K18841、研究代表者、2022 年度～2024 年度。

大向一輝（U-PARL 兼務教員／人文社会系研究科准教授）

- ②阿達藍留・菊間晴子・阿部賢一・大向一輝「グラフ構造を有する資料群を対象とした静的デジタルアーカイブの構築——「大江健三郎文庫自筆原稿デジタルアーカイブ」を事例とし

て」、『情報処理学会研究報告 人文科学とコンピュータ』vol.2024-CH-135 (no.7)、1-5 頁、2024 年 5 月。

②Michikazu Kobayashi, Mai Takahashi, Ikki Ohmukai. “Characterization of Player's Interpretations in Classical Keyboard Works Based on Local Structural Analysis of Performance.” *Digital Humanities 2024 Book of Abstracts*, pp.367-370, 2024.

②Kiyonori Nagasaki, Ikki Ohmukai, Masahiro Shimoda. “New Developments in Digital Scholarly Editions for Non-Latin Literature.” *Digital Humanities 2024 Book of Abstracts*, pp.500-501, 2024.

②Masao Oi, Satoru Nakamura, Ikki Ohmukai, Hidenori Watanabe. “Connects and Structures Co-created Learning Materials and Various Information with Diverse Digital Cultural Heritage for Children's Learning.” *Digital Humanities 2024 Book of Abstracts*, pp.524-525, 2024.

②牛尾久美・大向一輝「国会会議録を用いた ESG 関連テーマの抽出とその変容に関する分析」、『人文科学とコンピュータシンポジウム論文集』、情報処理学会、2024 年 11 月、283-290 頁。

②山田慎太郎・小川潤・大向一輝「ChatGPT を用いた人名・地名エンティティの自動抽出へ生成 AI を活用した中世アイスランド・サガの知識グラフ構築にむけて～」、『人文科学とコンピュータシンポジウム論文集』、情報処理学会、2024 年 11 月、329-334 頁。

一色大悟（U-PARL 特任准教授・副部門長）

②一色大悟「46 村上専精」、蓑輪頭量編『日本を変えたすごい僧侶図鑑』、産業編集センター、2024 年 9 月、210-213 頁。

③一色大悟「解説」、三枝充恵『縁起の思想』、法蔵館文庫、2024 年 8 月、368-376 頁。

③一色大悟「日本における俱舎学（論：部派仏教研究の現状と展開 3）」、『中外日報』28996、2024 年 9 月、5 頁。

③一色大悟「U-PARL イベント開催報告」、『アジア研究図書館（東京大学アジア研究図書館ニューズレター）』18、2025 年 1 月、1-3 頁。

④一色大悟「オンラインによる学術成果公開——対法雑誌刊行会と URA の経験から——」、国際仏教学大学院大学 FD 研修会、2024 年 7 月 19 日。

④藤川二葉・水野良美・福田将矢・横江智哉・稲石奈津子・一色大悟・宇佐美文理「人社系を中心とした融合研究はどのように創出されるか？——京都大学における先例調査」（ポスター発表）、RA 協議会第 10 回年次大会、2024 年 10 月 17 日。

④一色大悟「集団と理念：日本俱舎学におけるインドの仏教部派観」、東アジア藝文書院 UIA シンポジウム「佛法東漸：從印度到東亞的佛教軌跡」、2024 年 12 月 14 日。

④一色大悟・太田絵里奈・アクマタリエワ ジャクシルク・荒木達雄・澁谷秋・田中あき「第3期 U-PARL の学術資源デジタル化——みんなで「育てる」アーカイブでボトルネックを突破する」(ポスター発表)、仏教研究とデジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム「大正新脩大藏經の100年 SATの30年」、東京大学、2024年12月22日。

④Erina Ota-Tsukada, Airu Adachi, Hiroaki Sawa, Daigo Isshiki, Ikki Ohmukai. “Co-Creating the Archive: Rebuilding the Arabic Manuscript Collection Database through a Collaborative Dialogue,” Islamic Trust Studies International Symposium “Overcoming the Divide: Connectivity and Trust Building for Middle East Peace,” 23 Feb 2025.

④一色大悟「日本で地球が丸くなったとき: 仏教が探したヒューマンスケールの価値」U-PARL 文理融合・東西融合フォーラム(むすび、ひらくアジア7) SHIBUYA QWS アカデミアスペシャル東京大学「“明日を心ゆたかに過ごすには?” アジアの視点からみる Society5.0」2025年3月16日。

⑦非常勤講師 筑波大学人文・文化学群人文学類「「比較思想論-a」および「東洋宗教思想史演習 I-a」。

太田絵里奈 (U-PARL 特任助教)

②太田絵里奈「15世紀ウラマーの名目的師弟関係にみる「弱い紐帯の強さ」: RDF を用いた「データベース」としての人名録分析」、熊倉和歌子編『イスラームからつなぐ8 デジタル人文学が照らしたすコネクティビティ』、東京大学出版会、2025年3月、207-224頁。

③太田絵里奈「シビルダイアログ・キャラバン世界のつながりから未来を紡ぐ: こどもたちとの対話から考える“学知の共創”」、『イスラーム信頼学ニュースレター』4、2025年3月、22-24頁。

④太田絵里奈「15世紀マムルーク朝の文民エリートをめぐる知識グラフ」、2024年度三田史学会大会東洋史部会、慶應義塾大学、2024年6月22日。

④太田絵里奈「知識グラフで表現する15世紀マムルーク朝の史料記述」、DH シンポジウム図書資料の構造化: 研究データとしてのテキストデータ構築、慶應義塾大学、2024年7月21日。

④太田絵里奈・森本一夫「ダイバー・コレクション: 東文研アラビア文字写本群とその新たな電子公開に向けて」、アジア研究図書館分館設立記念講演会・東文研図書室の新たな旅立ちに向けて、東京大学、2024年12月20日。

④一色大悟・太田絵里奈・アクマタリエワ ジャクシルク・荒木達雄・澁谷秋・田中あき「第3期 U-PARL の学術資源デジタル化——みんなで「育てる」アーカイブでボトルネックを突

破する」(ポスター発表)、仏教研究とデジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム「大正新脩大藏經の100年 SATの30年」、東京大学、2024年12月22日。

④太田絵里奈「15世紀マムルーク朝文民エリートの「弱い」つながりと信頼：知識グラフを用いたネットワーク研究の可能性」、2024年度イスラーム信頼学全体集会、東京外国語大学、2025年1月11日。

④太田絵里奈・阿達藍留「アラビア語写本アーカイブの再構築：研究者コミュニティによる協働型データベースの展望」、U-PARL シンポジウム：むすび、ひらくアジア6 ボトルネックを乗り越える新時代のアーカイブ、東京大学、2025年1月26日。

④Erina Ota-Tsukada, Airu Adachi, Hiroaki Sawa, Daigo Isshiki, Ikki Ohmukai, “Co-Creating the Archive : Rebuilding the Arabic Manuscript Collection Database through a Collaborative Dialogue, Islamic Trust Studies International Symposium“Overcoming the Divide: Connectivity and Trust Building for Middle East Peace”, The University of Tokyo, February 23, 2025.

④太田絵里奈「正しい＜面白い＞：問いを生み出すデジタルアーカイブの教育活用」、U-PARL 文理融合・東西融合フォーラム(むすび、ひらくアジア7) SHIBUYA QWS アカデミアスペシャル東京大学 “明日を心ゆたかに過ごすには？”アジアの視点からみる Society5.0、SHIBUYA QWS、2025年3月16日。

⑥日本学術振興会科学研究費助成事業(若手研究)「マムルーク朝後期人名録のデジタル解析に基づく文民エリートの関係構築」、課題番号23K12288、研究代表者、2023年度～2027年度。

⑥日本学術振興会科学研究費助成事業(学術変革領域研究(A))「14～16世紀アラブ都市エリート間の名目的コネクティビティの可視化分析」、課題番号23H03928、研究代表者、2023年度～2024年度。

⑦非常勤講師 慶應義塾大学言語文化研究所「アラビア語中級(古典)」

⑦非常勤講師 慶應義塾大学通信教育学部夏期スクーリング「東洋史概説」

⑦ワークショップ・展示 アジアンライブラリーカフェ・シビルダイアログ企画「ボードゲームの世界へようこそ：遊びに映された時代と社会」東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門、世田谷代田仁慈保育園、学術変革領域(A)「イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築：世界の分断をのりこえる戦略知の創造」総括班共催、2024年10月29日～2025年1月10日。

アクマタリエワ ジャクシルク(U-PARL 特任研究員)

①アクマタリエワ ジャクシルク・大崎紀子『大学のキルギス語』、東京外国語大学出版会、2024年4月1日

- ②アクマタリエワ ジャクシルク「キルギス語の副動詞から成る副詞句をめぐって」、『北東アジア諸言語の記述と対照』、新潟大学・人文学部アジア連携研究センター、2025年3月。
- ③アクマタリエワ ジャクシルク「ある辞典とともにやってきた手紙」『アジア研究図書館(東京大学アジア研究図書館ニューズレター)』16、2024年7月、15-23頁。
- ④アクマタリエワ ジャクシルク「「中央ユーラシア文献コレクション」から一例」、日本北方言語学会第7回大会、2024年9月22日。
- ④Акматалиева Жакшылык, “Жапон университеттериндеги кыргыз тилин окутуунун учурдагы абалы жана көйгөйлөрү” Кыргызский государственный университет им. И. Арабаева "АКТУАЛЬНЫЕ ПРОБЛЕМЫ ПРЕПОДАВАНИЯ ИНОСТРАННЫХ ЯЗЫКОВ: ИННОВАЦИОННЫЕ МЕТОДЫ И ПЕРСПЕКТИВЫ", 2024.11.15.
- ④一色大悟・太田絵里奈・アクマタリエワ ジャクシルク・荒木達雄・澁谷秋・田中あき「第3期 U-PARL の学術資源デジタル化——みんなで「育てる」アーカイブでボトルネックを突破する」(ポスター発表)、仏教研究とデジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム「大正新脩大藏經の100年 SATの30年」、東京大学、2024年12月22日。
- ④アクマタリエワ ジャクシルク「消滅危機言語の保存に向けたデジタル・アーカイブの活用」、日本シベリア学会第10回研究会、2025年2月15日。
- ④ Акматалиева Жакшылык, “Жапониядагы кыргыз тилин чет тил катары окутуунун методологиясы”Кыргыз Республикасынын Президентине караштуу Мамлекеттик тил жана тил саясаты боюнча улуттук комиссиянын Окуу-маалыматтык жана котормо борбору”Чет элдик жарандарга мамлекеттик тилди үйрөтүү ыкмалары жана келечеги”, 2025.03.01.
- ④アクマタリエワ ジャクシルク、「中央ユーラシア学術資源データベース構築への取り組み」、2024年度ユーラシア言語研究コンソーシアム(CSEL)年次総会、2025年3月26日。
- ⑦プレ展示「絵と詩 少数民族 ショルのこころ」、U-PARL シンポジウム：むすび、ひらくアジア6「ボトルネックを乗り越える新時代のアーカイブ」、東京大学、2025年1月26日。
- ⑦プレ展示「絵と詩 少数民族 ショルのこころ」、U-PARL 文理融合・東西融合フォーラム(むすび、ひらくアジア7) SHIBUYA QWS アカデミアスペシャル東京大学 “明日を心ゆたかに過ごすには？”アジアの視点からみる Society5.0、SHIBUYA QWS、2025年3月16日。
- ⑦非常勤講師 東京外国語大学「世界のことばA」。
- ⑦フェロー 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2023年度～2025年度。
- ⑦共同研究員 新潟大学アジア連携研究センター(研究課題：「シベリア先住民諸語の記述的・類型論的研究」)、2022年度～2026年度。

⑦共同研究員 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（共同利用・共同研究課題：「ユーラシア諸言語における談話の文法」）、2024年度～2027年度。

⑦資格取得 東京大学フューチャーファカルティプログラム（東大 FFP）修了、2025年2月21日。

荒木達雄（U-PARL 特任研究員）

②荒木達雄「日人如何學會白話文？——日人無名氏的水滸傳讀書筆記」、『中國文哲研究通訊』34(3)、2024年9月、117-146頁。

③高島俊男原著、荒木達雄・石川就彦・藤村明日香翻刻・校注『翻刻 高島俊男《水滸伝語彙辞典稿》Dの部（下）・Eの部』、東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門、2024年11月。

③高島俊男原著、荒木達雄・石川就彦・伊藤和子翻刻・校注『翻刻 高島俊男《水滸伝語彙辞典稿》Lの部』、東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門、2025年2月。

④荒木達雄「明清白話在東瀛——日人無名氏的水滸傳讀書筆記」、明清文學在東亞學術研討會、2024年8月29-30日、中央研究院中国文哲研究所。

④一色大悟・太田絵里奈・アクマタリエワ ジャクシルク・荒木達雄・澁谷秋・田中あき「第3期 U-PARL の学術資源デジタル化——みんなで「育てる」アーカイブでボトルネックを突破する」（ポスター発表）、仏教研究とデジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム「大正新脩大藏經の100年 SATの30年」、東京大学、2024年12月22日。

⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（若手研究）「『水滸伝語彙辞典稿』の継承と発展」、課題番号23K12109、研究代表者、2023年度～2025年度。

⑦非常勤講師 神奈川大学国際日本学部「留学生対象中日翻訳」。

⑦非常勤講師 神奈川大学国際日本学部「日本語演習C1」。

澁谷秋（U-PARL 特任研究員）

①澁谷秋著、山崎玲美奈監修『言いたい！をかなえる 韓国語レッスン【入門編】』、アルク、2025年1月、264頁。

②澁谷秋「啓明大学校所蔵『續三綱行實圖』について」、『朝鮮学報』264、2024年12月、45-74頁。

④澁谷秋「『續三綱行實圖』の漢字音について」、第75回朝鮮学会大会、天理大学、2024年10月6日。

- ④澁谷秋「韓国語 OCR の現状と朝鮮本への TEI 構造適応にむけて」、HMC 第 121 回オープンセミナー、オンライン、2024 年 10 月 17 日。
- ④一色大悟・太田絵里奈・アクマタリエワ ジャクシルク・荒木達雄・澁谷秋・田中あき「第 3 期 U-PARL の学術資源デジタル化——みんなで「育てる」アーカイブでボトルネックを突破する」（ポスター発表）、仏教研究とデジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム「大正新脩大藏經の 100 年 SAT の 30 年」、東京大学、2024 年 12 月 22 日。
- ④澁谷秋「写真資料のアーカイブ化とその活用：田中武雄氏旧蔵写真等資料」、U-PARL シンポジウム：むすび、ひらくアジア 6 「ボトルネックを乗り越える新時代のアーカイブ」、東京大学、2025 年 1 月 26 日。
- ⑦非常勤講師 東京大学東洋文化研究所「漢籍整理長期研修」「朝鮮本について」
- ⑦非常勤講師 学習院大学外国語教育センター「朝鮮語 B（初級）」

田中あき（U-PARL 特任研究員）

- ②田中あき「ベトナム近現代文学と検閲（1920 年代～2020 年代）」、『クアドランテ』27、2025 年 3 月、97-126 頁。
- ④田中あき、「ベトナム戦争期の南ベトナム文学—敗者となった側の作家 ズオン・ギェム・マウのテキストを題材に—」、世界文学・語圏横断ネットワーク研究集会、立命館大学、2024 年 9 月 16 日。
- ④一色大悟・太田絵里奈・アクマタリエワ ジャクシルク・荒木達雄・澁谷秋・田中あき「第 3 期 U-PARL の学術資源デジタル化——みんなで「育てる」アーカイブでボトルネックを突破する」（ポスター発表）、仏教研究とデジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム「大正新脩大藏經の 100 年 SAT の 30 年」、東京大学、2024 年 12 月 22 日。
- ⑥公益財団法人 JFE 21 世紀財団アジア歴史研究助成「南ベトナム文学に描かれた戦争下におけるナショナルな苦悶」、研究代表者、2025 年 1 月～2025 年 12 月。
- ⑦講師 令和 6 年度外国語資料普及事業「知ろう！語ろう！ベトナム文学の魅力」、埼玉県立熊谷図書館、2025 年 2 月 9 日。

IV.構成員等名簿

4.1 運営委員会名簿

令和6年度のアジア研究図書館運営委員会名簿は以下の通りである。

佐川英治（委員長 / 大学院人文社会系研究科）
 平野聡（大学院法学政治学研究科）
 齋藤希史（大学院人文社会系研究科）
 松本武祝（大学院農学生命科学研究科）
 小島庸平（大学院経済学研究科）
 川島真（大学院総合文化研究科）
 森本一夫（東洋文化研究所）
 小寺敦（東洋文化研究所）
 永吉希久子（社会科学研究所）
 荻部直（附属図書館副館長 / 大学院法学政治学研究科）
 蓑輪顕量（大学院人文社会系研究科）
 一色大悟（U-PARL）
 河原弥生（RASARL）
 大山努（附属図書館事務部長）

4.2 構成員名簿

令和7年3月31日現在の構成員は以下の通りである。

館長：佐川英治（大学院人文社会系研究科）

RASARL構成メンバー

佐川英治（部門長・兼務教員/大学院人文社会系研究科）
 森本一夫（兼務教員/東洋文化研究所）
 河原弥生（准教授）
 河崎豊（助教）
 板橋暁子（助教）

U-PARL構成メンバー

蓑輪顕量（部門長・兼務教員/大学院人文社会系研究科）

上原究一（副部門長・兼務教員/東洋文化研究所）

松本武祝（兼務教員/大学院農学生命科学研究科）

高橋美保（兼務教員/大学院教育学研究科）

海野聡（兼務教員/大学院工学系研究科）

大向一輝（兼務教員/大学院人文社会系研究科）

渡邊英徳（兼務教員/大学院情報学環学際情報学圏）

一色大悟（特任准教授）

太田絵里奈（特任助教）

アクマタリエワ ジャクシルク（特任研究員）

荒木達雄（特任研究員）

澁谷秋（特任研究員）

田中あき（特任研究員）

別紙 1

漢籍コーナー運営委員会規則

人文社会系研究科教授会

制定 平成 17 年 3 月 2 日

改定 平成 22 年 5 月 13 日

改定 令和 6 年 6 月 20 日

(目的)

第 1 条 この規則は、大学院人文社会系研究科・文学部（以下「本研究科」という。）図書委員会規則第 2 条第 4 項の規定に基づき、漢籍コーナー運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めることを目的とする。

(任務)

第 2 条 委員会は、漢籍コーナー及びアジア研究図書館分室の管理運営に関する重要事項を審議する。ただし、次に掲げる事項については、委員会で議決した原案を図書委員会に諮らなくてはならない。

- (1) 委員会の構成に関する事項
- (2) 予算措置を必要とする事項
- (3) 書庫の設置場所・書架等の使用計画に関する事項

(委員)

第 3 条 委員は、本研究科の教員のうち、次の各号に掲げる者をもって充てる。

- (1) 漢籍コーナーに特に関わりを持つ本研究科の研究室から推薦された教授又は准教授 各 1 名

- (2) 図書委員会正副委員長

2 前項第 1 号の研究室は、当分のあいだ次に掲げる研究室とする。

- (1) 中国思想文化学研究室
- (2) インド哲学仏教学研究室
- (3) 東洋史学研究室
- (4) 言語学研究室
- (5) 中国語中国文学研究室
- (6) 韓国朝鮮文化研究室

3 第 1 項第 1 号の委員の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長を置く。

2 委員長は、前条第1項第1号の委員の互選によって選出する。

3 委員長の任期は、2年とする。

(委員以外の者の列席)

第5条 委員長は、必要があると認める場合には、委員会に委員以外の教職員（アジア研究図書館研究開発部門の教員を含む）の列席を求めることができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、漢籍コーナーにおいて処理する。

(補則)

第7条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の定めるところによる。

附 則

この規則は、令和6年6月20日から施行し、令和6年4月1日から適用する。

別紙 2

東京大学アジア研究図書館選書委員会設置要項

令和6年7月22日

アジア研究図書館長裁定

(設置)

第1条 東京大学アジア研究図書館に選書委員会（以下、「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、アジア研究図書館で所蔵、提供する資料の選定、および蔵書構築に関する検討を行う。

(組織)

第3条 委員会は、委員長および委員をもって組織する。

(委員長)

第4条 委員長は、アジア研究図書館研究開発部門またはアジア研究図書館上廣倫理財団寄附研究部門の教員をもってあてる。

2 委員長は、委員会を召集し、会務を統括する。

3 委員長に事故があるとき、あらかじめ委員長が指名する委員が、その職務を代理する。

(委員)

第5条 委員は、次の各号に掲げる者とする。

(1) アジア研究図書館研究開発部門教員から選出された者

(2) アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門特任教員および特任研究員から選出された者

(3) 附属図書館事務部長が指名した者

(4) その他アジア研究図書館長が必要と認めた者

(任期)

第6条 委員の任期は1年とする。

2 再任は妨げない。

3 第1項に定める委員が、欠員となった場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(開催)

第7条 委員会は、必要に応じて開催するものとする。

(選定)

第8条 委員会は、別に定める「アジア研究図書館資料収集基準」に基づき選定作業を行う。

(補足)

第9条 この要項に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、アジア研究図書館長が別に定める。

(附則)

この要項は、令和6年8月1日から施行する。

別紙 3

東京大学アジア研究図書館規則

平成 29 年 11 月 29 日 図書行政商議会決定

平成 30 年 3 月 5 日 一部改正

令和 2 年 7 月 16 日 一部改正

令和 6 年 11 月 15 日 一部改正

(趣旨)

第 1 条 この規則は、東京大学総合図書館規則第 7 条第 2 項の規定に基づき設置されるアジア研究図書館の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 アジア研究図書館は、アジア関係研究資料の収集・管理・提供を通し、広くアジアに関する研究・教育を活性化するとともに、アジアに関わる新しい研究を創出することにより、東京大学における研究・教育と国際的なアジア研究の発展に寄与することを目的とする。

(業務)

第 3 条 アジア研究図書館においては、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) アジアに関する研究資料・情報の収集・管理・提供
- (2) アジアに関する研究の推進
- (3) アジアに関する国際研究交流の推進
- (4) アジアに関する研究・教育の支援
- (5) その他前条の目的達成のために必要な業務

(組織)

第 4 条 アジア研究図書館は、附属図書館と他部局の間で協定を交わすことにより、他部局に分館または分室を置くことができる。なお、原則として部局図書館・室に置くものを分館、それ以外に置くものを分室とする。

2 前項の分館または分室は、別表に定めるとおりとする。

第 5 条 アジア研究図書館に、館長を置く。

2 館長は総合図書館長が任命する。

3 館長の任期は 3 年とし、総合図書館長の任期を超えないものとする。ただし、再任を妨げない。

第 6 条 アジア研究図書館における研究は、附属図書館に置かれた研究部門と協働して行う。

第7条 アジア研究図書館に関する事務は、附属図書館事務部で行う。

(運営委員会)

第8条 アジア研究図書館に、その運営に関する重要事項を審議するため、運営委員会を置く。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(利用)

第9条 アジア研究図書館の利用に関し必要な事項は、別に定める。

(補則)

第10条 この規則に定めるもののほか、アジア研究図書館の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この規則は、令和2年10月1日から施行する。

別表（第4条関係）

分館・分室の別	
分館	東洋文化研究所図書室
分室	大学院人文社会系研究科・文学部漢籍コーナー

別紙 4

**Memorandum of Understanding on Cooperation
between the
Indira Gandhi National Centre for the Arts, New Delhi,
and the
Asian Research Library,
The University of Tokyo**

The Indira Gandhi National Centre for the Arts, New Delhi, and the Asian Research Library, The University of Tokyo (hereinafter referred to as the “Parties”), desiring to strengthen the cooperation between the Parties and considering the benefits for each Party arising from joint activities and projects, have reached the following understanding.

The Parties will endeavor to develop and implement joint activities and projects in the fields relevant to the enhancement and updating of the library services provided by the Parties and to the promotion of intercultural understanding.

The Parties will consider taking up the following forms of cooperation.

Article 1: Sharing Information and Experiences

- 1.1 Exchange of information and experiences relevant to the enhancement and updating of the library services in the physical and virtual domains, including in such fields as development of electronic resources and digital libraries and the conservation and restoration of library resources.
- 1.2 Cooperation between experts and researchers affiliated to or nominated by the Parties in education and research related to such fields as documentation, information science, edition of manuscripts and documents, translation, publication, linguistic research, mapping of archaeological/heritage sites, social science research, exhibition, and cultural performance (hereinafter “relevant fields”).

Article 2: Exchange of Library Materials and Digital Collections

- 2.1 Creation and sharing of digital collections of mutual interest, wherever possible.
- 2.2 Exchange of materials published by the Parties in relevant fields.

Article 3: Cooperation in Human Resource Development

- 3.1 Cooperation in human resource development through mutual visits, internships, and organization of training events.

Article 4: Research Collaboration

- 4.1 Cooperation between experts and researchers affiliated to or nominated by the Parties in the research in relevant fields.
- 4.2 Hosting and assisting qualified researchers affiliated to or introduced by the other Party during their sojourns to conduct research in the fields of their interests.

Article 5: Project Specific Collaboration

- 5.1 Mutual consent of the parties can be exchanged through the letters.
- 5.2 For financial obligations, the necessary approvals will be sought by the concerned party.

Terms & Conditions

The Parties will cooperate on the basis of equality, openness and respect for each other's rights and traditions.

The Parties recognize differences in their legal statuses, administrative structures and sources of financing. This Memorandum is not intended to create any legally binding obligations and will be carried out in accordance with the laws and regulations applicable respectively to the Parties. The realization of the understanding in this Memorandum is subject to the availability of funds and other resources.

Any differences in the interpretation pertaining to the implementation of this Memorandum will be resolved through consultations between the Parties.

This Memorandum can be amended only by the mutual agreement of the Parties expressed in writing. This Memorandum will come into effect on the date of the second signature. It will remain in effect for five years or until terminated by either Party upon a written notice to the other Party at least three months in advance.

In order to put the understanding in. this Memorandum in practice, each Party designates a representative to discuss possible concrete measures.

This Memorandum is hereby signed in New Delhi and in Tokyo in English in 2 (two) copies, one for each Party. Both of the 2 (two) copies shall be deemed as originals.

For and on behalf of the
Indira Gandhi National Centre for the Arts,
New Delhi.

(DR. SACHCHIDANAND JOSHI)
Member Secretary,
Indira Gandhi National Centre for the Arts,
Janpath Building, Janpath,
New Delhi – 110001.

DATED:

For and on behalf of the
Asian Research Library,
The University of Tokyo

(PROF. EIJI SAGAWA)
Director of the Asian Research Library,
7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku,
Tokyo 1130033.

DATED:

令和 6 年度東京大学アジア研究図書館活動報告書

令和 7 年 7 月 16 日 発行

編集・発行 東京大学アジア研究図書館研究開発部門

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

asialib@lib.u-tokyo.ac.jp

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia>